

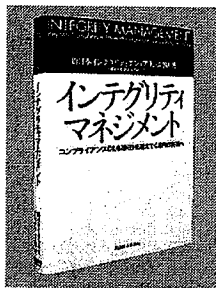
## 行間を語る

コンプライアンスという言葉は、企業をめぐる不祥事が発生するたび、その防止策の中で用いられる。しかし、コンプライアンスを法令などルールの「順守」と限定的にとらえてないだろうか。桐蔭横

新日本インテグリティ  
アシユアランス常務

大久保 和孝

## インテグリティマネジメント



浜大学の郷原信郎教授が指摘しているように、コンプライアンスは「comply」の訳語である「充足」「調和」に基づき、「社会的要請に応

### 実効性ある内部統制構築を

「じていくこと」と訳した方が、本質的な理解に近づく。司法制度が硬直化し、企業を取巻く法的な基盤が脆弱(ぜいじゃく)な経済社会では、必ずしも社会的要請が法令に反映されない。そうした環境では、法の趣旨や背後にある社会の要請を理解し、経済活動を展開しなければならぬ。そこで求められるコンプライアンスとは、社会の要請を企業リスクと位置づけ、機敏に対応するリスク管理態勢を指す。こうした経営管理態勢をインテグリティマネジメントと呼ぶ。会社法の施行で内部統制の強化が求められるが、列挙された課題への対策だけでなく、いかにして変化するリスクを認識し管理できるかが重要になる。本書は内部統制の構築を形骸化させないための具体的なヒントを示すものである。

(東洋経済新報社、本体三千円、税抜き、共著)